

力 学 I 演 義 答 案 作 成 要 領

連 成 振 動

2-Coupled Oscillator

大阪大学 理学部・物理学科 金 導賢

担当：渡辺 純二（アドバンスト）

(計 算 用 紙)

〔 1 〕 この系では、 N 個の粒子が互いにばね定数 k によるポテンシャルを受けながら連成振動する。

(A) より、この系のポテンシャル $U(x_1, \dots, x_N)$ は次のように書ける。

$$U(x_1, \dots, x_N) = \frac{k}{2}x_1^2 + \frac{k}{2}x_N^2 + \sum_{n=1}^{N-1} \frac{k}{2}(x_{n+1} - x_n).$$

更に、この系の運動方程式は、アインシュタインの縮約規則を用いて次のテンソル $K_{\mu\nu}$ を定め、

$$K_{\mu\nu} = 2k\delta_{\mu\nu} - k\delta_{\mu\nu-1} - k\delta_{\mu\nu+1}$$

その運動方程式を次式のように書ける。

$$m\partial^2 x_\mu = -K_{\mu\nu}x_\nu$$

(B) ここで一般化座標 Q を次のように与える：

$$Q = \sum_{n=1}^N c_n x_n \quad (1)$$

ならば、このような一般化座標系 Q は次の一般化運動方程式を満たす。

$$\frac{d^2 Q}{dt^2} = -\omega^2 Q$$

より、一般化座標 (1) を代入することにより：

$$\begin{aligned} -\omega^2 \sum_n c_n x_n &= \sum_{n=1}^N c_n \frac{d^2 x_n}{dt^2} = -\frac{1}{m} \sum_{n,\nu} c_n K_{n\nu} x_\nu \\ &= -\frac{k}{m} \sum_n c_n (2x_n - x_{n+1} - x_{n-1}) \\ &= \gamma \sum_n (c_n - 1 + c_{n+1} - 2c_n) \end{aligned}$$

を分かる．この計算では， $1 \leq n \leq N$ ， $1 \leq \nu \leq N$ で， $x_0 = x_N = 0$ を用いた．より，以下の式が成り立つ：

$$\boxed{\gamma(c_{n-1} - 2c_n + c_{n+1}) = -\omega^2 c_n.}$$

(C) 問題 (B) で示したように，次式が成り立つことを用いる．

$$\omega^2 = \gamma \left(2 - \frac{c_{n+1} + c_{n-1}}{c_n} \right)$$

ここで，次の複素解 $c_n = e^{iqn}$ およびオイラー公式 $e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta$ を用いて，更に次の結果が得られる：

$$\omega^2 = \gamma(2 - e^{iq} - e^{-iq}) = 2\gamma(1 - \cos q).$$

(D) 先ず，境界条件 $c_0 = 0$ のことから， c_n を次のように書ける．

$$c_n = A(e^{iqn} - e^{-iqn}) = 2A \sin(qn)$$

また， $c_{N+1} = 0$ から：

$$q(N+1) = p\pi; \quad c_n^p = 2A \sin\left(\frac{p\pi}{N+1}n\right)$$

を分かる．更に，問題の規格化条件 $\sum_{n=1}^N (c_n^p)^2 = 1$ から定数 A を次路用に決めることもできる．

$$\frac{1}{4A^2} = \sum_{n=1}^N \sin^2\left(\frac{p\pi}{N+1}n\right) \quad \cdots (*)$$

ここで， $c_0 = c_N = 0$ から，式 (*) を計算するため，次の複素関数の演算を考える．

$$\sum_{n=0}^{N+1} e^{i\left(\frac{2p\pi}{N+1}n\right)} = \frac{1 - e^{i\left(2p\pi + \frac{2p\pi}{N+1}\right)}}{1 - e^{i\left(\frac{2p\pi}{N+1}\right)}} = 1$$

より，次の関係式を得られる．

$$\operatorname{Re} \left(\sum_{n=0}^{N+1} e^{i \left(\frac{2p\pi}{N+1} n \right)} \right) = \sum_{n=0}^{N+1} \cos \left(\frac{2p\pi}{N+1} n \right) = 1$$

上式の複素指数関数と三角関数の関係から，次のような関係式が成り立つことを分かる．

$$\sum_{n=0}^{N+1} \sin^2 \left(\frac{p\pi}{N+1} n \right) = \sum_{n=0}^{N+1} \frac{1}{2} \left\{ 1 - \cos \left(\frac{2p\pi}{N+1} n \right) \right\} = \frac{N+1}{2}$$

上式の結果を式 (*) として定めた規格化条件に代入することにより，定数 A を求めることができる．

$$A = \frac{1}{\sqrt{2(N+1)}}$$

更に問題の係数列 c_n^p を求めることができる：

$$\boxed{c_n^p = \sqrt{\frac{2}{N+1}} \sin \left(\frac{p\pi}{N+1} n \right).}$$

一方で，このように定まる変換 Q_p を x_n のフーリエ変換と呼ぶ．

$$\text{フーリエ変換: } Q_p = \sum_{n=1}^N \sqrt{\frac{2}{N+1}} \sin \left(\frac{p\pi}{N+1} n \right) x_n$$

(E) 問題文での式 (5) および問題 (D) で得られたパラメータ q の関係式から、次の式が成り立つことが分かる。

$$\omega_p^2 = 2\gamma \left\{ 1 - \cos \left(\frac{p\pi}{N+1} \right) \right\}, \quad (p = 1, 2, \dots, N)$$

より、 ω_p は次のように与えられる：

$$\omega_p = \sqrt{2\gamma \left\{ 1 - \cos \left(\frac{p\pi}{N+1} \right) \right\}}.$$

(F) 次を計算することにより示せばよい：

$$\sum_{n=1}^N c_n^p c_n^{p'} = \sum_{n=0}^{N+1} \frac{2}{N+1} \sin \left(\frac{p\pi}{N+1} n \right) \sin \left(\frac{p'\pi}{N+1} n \right)$$

ここで、 $p' > p$ とおいても一般性を失わないことを式の対称性により分かる。より、 $p' = p + \alpha$ ($\alpha = 1, \dots, N-1$) とおいても問題はない。

$$\begin{aligned} \frac{N+1}{2} \sum_{n=1}^N c_n^p c_n^{p'} &= \sum_{n=0}^{N+1} \sin \theta_n^p \sin (\theta_n^p + \theta_n^\alpha) \\ &= \sum_{n=0}^{N+1} \sin^2 \theta_n^p \cos \theta_n^\alpha + \sin \theta_n^p \cos \theta_n^p \sin \theta_n^\alpha \end{aligned} \quad (2)$$

ここで、パラメータ $\theta_n^p, \theta_n^\alpha$ は次のように定義する。

$$\theta_n^p = \frac{p\pi}{N+1} n \quad \theta_n^\alpha = \frac{\alpha\pi}{N+1} n$$

次の三角関数の加法定理を用いると：

$$\sin^2 \theta = \frac{1 - \cos 2\theta}{2}, \quad \sin \theta \cos \theta = \frac{1}{2} \sin 2\theta$$

次のように三角関数の加法定理に連鎖的に使うことにより、式 (2) の計算は下式のようにもできる。

$$\begin{aligned} \frac{N+1}{2} \sum_{n=0}^{N+1} c_n^p c_n^{p'} &= \sum_{n=0}^{N+1} \frac{1}{2} \cos \theta_n^\alpha + \frac{\sin 2\theta_n^p \sin \theta_n^\alpha - \cos 2\theta_n^p \cos \theta_n^\alpha}{2} \\ &= \sum_{n=0}^{N+1} \frac{1}{2} \cos \theta_n^\alpha - \frac{1}{2} \cos (2\theta_n^p + \theta_n^\alpha) \end{aligned} \quad (a)$$

この式 (a) を計算するため、問題 (D) と同じ様に次のような複素関数を計算する:

$$\sum_{n=0}^{N+1} e^{i\theta_n^p} = \frac{1 - e^{i(N+2)\theta_n^p}}{1 - e^{i\theta_n^p}} = \frac{1 - e^{i(p\pi + \frac{p\pi}{N+1})}}{1 - e^{i(\frac{p\pi}{N+1})}}$$

より、その結果として次のように表せる.

$$\sum_{n=0}^{N+1} e^{i\theta_n^p} = \begin{cases} 1 & (\alpha \text{ は偶数}) \\ i \left\{ \frac{\sin\left(\frac{p\pi}{N+1}\right)}{1 - \cos\left(\frac{p\pi}{N+1}\right)} \right\} & (\alpha \text{ は奇数}) \end{cases}$$

同様に、次式も成り立つことが分かる.

$$\sum_{n=0}^{N+1} e^{i(2\theta_n^p + \theta_n^\alpha)} = \begin{cases} 1 & (\alpha \text{ は偶数}) \\ i \left\{ \frac{\sin\left(\frac{2p\pi + \alpha\pi}{N+1}\right)}{1 - \cos\left(\frac{2p\pi + \alpha\pi}{N+1}\right)} \right\} & (\alpha \text{ は奇数}) \end{cases}$$

上式の実数倍を取ることによって下記のように式 (a) を求めることができる.

$$\sum_{n=0}^{N+1} \cos \theta_n^p = \sum_{n=0}^{N+1} \cos (2\theta_n^p + \theta_n^\alpha) = \begin{cases} 1 & (\alpha \text{ は偶数}) \\ 0 & (\alpha \text{ は奇数}) \end{cases}$$

このことから、係数 c_n^p と $c_n^{p'}$ は次のような直交性 (orthogonality) を持つことが分かる.

$$\sum_{n=0}^{N+1} c_n^p c_n^{p'} = \frac{2}{N+1} \sum_{n=0}^{N+1} \frac{1}{2} \cos \theta_n^\alpha - \frac{1}{2} \cos (2\theta_n^p + \theta_n^\alpha) = 0.$$

(G) 先ず，係数 c_n^p は問題 (D) および (F) から次のような正規直交性を持つことが分かった．

$$\sum_{n=1}^N c_n^p c_n^{p'} = \delta_{pp'}$$

より，式 (8) により定めた一般化座標 Q_p の両辺に係数 $c_n^{p'}$ をかけて，和 $\sum_{p=1}^N$ を与えると次のように計算される．

$$\begin{aligned} \sum_{p=1}^N c_n^p Q_p &= \sum_{p=1}^N \sum_{n=1}^N c_n^p c_n^p x_n = \sum_{n=1}^N x_n \underbrace{\left(\sum_{p=1}^N c_p^{n'} c_p^n \right)}_{\delta_{nn'}} \\ &= \sum_{n=1}^N x_n \delta_{nn'} = x_n \end{aligned}$$

ここで， $c_n^p = c_p^n$ を用いた（簡単に確認できる）．より，書き直せば次のような結果を得られる：

$$x_n = \sum_{p=1}^N c_n^p Q_p = \sum_{p=1}^N \sqrt{\frac{2}{N+1}} \sin \left(\frac{p\pi}{N+1} n \right) Q_p.$$

このような方法を ‘Fourier’s Trick’ と呼ぶ．

係数に関するコメント

次の段階に進行するまえに、先ず c_n^p の物理的意味を考える必要がある。そのため、次のようなテンソル $U_{n\nu}$ を考える。

$$U_{\mu\nu} = c_\mu^\nu = \sqrt{\frac{2}{N+1}} \sin\left(\frac{\nu\pi}{N+1}\mu\right)$$

$$U_{\mu\nu}^\dagger = c_\nu^\mu = \sqrt{\frac{2}{N+1}} \sin\left(\frac{\mu\pi}{N+1}\nu\right)$$

そのように $U_{n\nu}$ を定めれば、これは 2 次テンソル、つまり N 次正方行列になることも分かる。例えば、前回の演義であった $N=2, N=3$ の場合は：

$$U_{n\nu}^{N=2} = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}, \quad U_{n\nu}^{N=3} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} 1 & \sqrt{2} & 1 \\ \sqrt{2} & 0 & -\sqrt{2} \\ 1 & -\sqrt{2} & 1 \end{bmatrix}$$

のようになることを簡単な計算により分かる。つまり、このテンソル $U_{n\nu}$ は N の場合のそれぞれの調和振動子で分離できる一般化座標 Q_1, \dots, Q_N への変換を及ぼす行列であることを分かる。さらに、計算により、 $K_{\mu\nu}$ も対角化できることを分かる：

$$U_{l\mu}^\dagger K_{\mu\nu} U_{\nu m} = (2k\delta_{\mu\nu} - k\delta_{\mu\nu-1} - k\delta_{\mu\nu+1}) c_\mu^l c_\nu^m$$

$$= 2k\delta_{lm} - k\delta_{\mu\nu-1} c_\mu^l c_\nu^m - k\delta_{\mu\nu+1} c_\mu^l c_\nu^m$$

ここで、 $c_\mu^l c_\nu^m$ は次のように計算できる。

$$\delta_{\mu\nu-1} c_\mu^l c_\nu^m = c_\mu^l c_{\mu+1}^m = \frac{2}{N+2} \sum_\mu \sin\left(\frac{\mu l \pi}{N+1}\right) \sin\left(\frac{\mu m \pi + m \pi}{N+1}\right)$$

$$= \sum_\mu c_\mu^l c_\nu^m \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\right) + \frac{2}{N+1} c_\mu^l c_1^m \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\mu\right)$$

$$= \sum_\mu \delta_{lm} \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\right) + \frac{2}{N+1} c_\mu^l c_1^m \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\mu\right)$$

これは、 $\delta_{\mu\nu+1} c_\mu^l c_\nu^m$ の項も同様である：

$$\delta_{\mu\nu+1} c_\mu^l c_\nu^m = \sum_\mu \delta_{lm} \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\right) - \frac{2}{N+1} c_\mu^l c_1^m \cos\left(\frac{m\pi}{N+1}\mu\right).$$

以上のことを合わせるとテンソル $K_{\mu\nu}$ は次のように、 $U_{\mu\nu}$ により対角化できることを確かめられる．

$$\overline{K}_{lm} = \overline{U}_{l\mu}^\dagger K_{\mu\nu} U_{\nu m} = 2k \left\{ 1 - \cos \left(\frac{m\pi}{N+1} \right) \right\} \delta_{lm} \quad (3)$$

例えば、 $N = 3$ の場合、その対角化行列 \overline{K}_{lm} は次のように与えられる．

$$\overline{K}_{lm} = \begin{bmatrix} (2 - \sqrt{2})k & 0 & 0 \\ 0 & 2k & 0 \\ 0 & 0 & (2 + \sqrt{2})k \end{bmatrix}$$

これは、前回の No.9 とも、問題文の式 (5) とも結果が一致する．

コメント終わり